

船井情報科学振興財団 留学生レポート

2014年6月

澤田 真行

1 はじめに

留学生レポートも3度目となりました。ConnecticutはNew Havenにやってきましたそろそろ1年となります。私は変わらずYale University, Graduate School of Arts and ScienceのEconomics PhDコースに所属し、二年目になろうとしています。Yale大学は東海岸の、New YorkとMassachusettsとはさまれた小さな州、Connecticut, New Havenに位置しています。

2 生活

私は今この文章を東京のスターバックスで、驚くほどに割高なショートのアイスコーヒーを大事に飲みながら書いています。8オンスサイズのこの小さいカップで3ドルもとるだなんて、カプチーノが飲めてしまうじゃないかと憤慨していましたが、その分外食は安いのでやはり日本のほうが居心地は良いですね。

今期は東海岸にしか(というよりNew HavenとBostonにしかない)Blue State Coffeeというお店に足しげく通っていました。Smallサイズで2.23ドルなのですが、Smallといっても今ここにある小さなShortサイズに比べて約1.5倍の大きさのカップでできます。20杯購入するともらえるFree Drinkで普段頼まないような豪華なドリンクをいただくのがささやかな楽しみでした。

他のラボ単位の皆さんと異なり、私は三年生まで研究室が与えられません。この時期は指導教官も決まっておられませんので残っていても意味がなく、まるで学部生のように夏休みで日本に帰っております。

New Havenの冬は想像ほどではないものの、なかなか厳しい寒さでした。というのも今年は教授曰く”ジャックポット”だったようで、例年よりも多目の積雪と肌が痛くなるほどの冷気を体験することができました。より寒いところから来た友人らは「ここは雪への対応が遅い！」などと憤慨していましたが、関東出身の身としては大雪自体が久しぶりでうきうきさえていました。もちろん楽しかったのは最初の数日だけで、あとはうんざりとしていたのですが。

雪が降り積もることで何よりも恐ろしかったのは、車の運転です。私自身は免許はもっておりますがまだ米国では運転していません。何が恐ろしいかというと、路面が雪に覆われているにもかかわらず、スノータイヤどころかチェーンもはかない車がひたすらスリップしているのです。凍結した坂から抜け出そうととんでもないスピードで歩道に飛び出してくる車など、何度も怖い目にあいました。これがBostonまで北上すると、もう少し凍結防止やらスノータイヤやらで改善するそうなのですが、New Havenはその点では中途半端なのでしょう。もし冬にいらっしゃることがあればお気をつけ下さい。

3 研究

経済学研究科大学院の一年目は基本的に基礎科目の試験をパスすることのみに時間をとられるというお話を以前にもしたかと思いますが、今学期は秋学期より増して試験勉強に追われて他のことをする余裕なくあつというまに過ぎ去りました。結果から申し上げますと、ちょうど数日前にミクロ経済学、マクロ経済学ともに要求

されている 60% を上回って通過したという通知を受けまして、無事に 2 年生へと進級できることが確定しました。

米英の経済系博士課程は大学によって程度は違えど、初年度の試験成績によって一定数の学生がドロップアウトさせられます。他の大学も同様の制度をもっていることが多いですが、Yale 大学においては基礎科目の期末試験にくわえて、1 年間の内容全てが出題範囲となる Comprehensive Exam という 4 時間 × 2 回の筆記試験があります。

結果がくるまで内心震えていたのですが、無事にその危機は免れたようです。こういう試験はもうこりごりですが、終わってみると自分の身になることも多かったかなと思います。

なお Yale 大学は冷酷な首切りをする他大学 (先輩奨学生である潮田さんの所属するシカゴは本人もおっしゃるとおり、まさに 1、2 を争う冷酷な大学です。) に比べるとずいぶん寛大な方ではありますが、それでも追試者は何人かです。

基礎科目として受講したミクロ経済学とマクロ経済学は多くが修士課程でやったことの重複だったのですが、なにより驚いたのはその講義の早さでした。扱われている内容はほとんど同じなのですが、東京大学の修士課程で半期かけて教えていた内容のほとんどを四半期で終わらせてしまい、余った半期はいままで扱わなかったような内容を教えるなど密度がとても濃いものでした。

特にミクロ経済学では、修士課程では触れなかったメカニズムデザインの議論やアローの不可能性定理などにみっちり時間を割いており、受けている間は溺れるようでしたが、こういった自分からではすすんで勉強しないような他領域も含めて学ぶことができ今後の研究に幅ができればいいなと感じています。

一方マクロ経済学では MATLAB を用いた数値計算の課題が定期的に出されていました。私はそういったものを主として行っていくので構わないのですが、プログラミングの経験がほぼないままきた学生であるとか計算機に苦手意識をもつ学生が思ったよりも多く苦労していたようです。中には「どうせ試験では問えないのだからやっても意味がない」と課題をボイコットする学生もいたようで、何度か担当教員が嫌な顔をする場面がありました。

今はやっと試験のことはひとまず忘れて、自分の研究課題を設定しなおそうとひたすら論文を眺めているところです。次回の報告の時期には、自分の研究の進捗などについてきちんと報告できればと考えています。

日本はじめじめとした梅雨の季節となったようですが、皆様暑さにバテぬよう身体にお気をつけてお過ごしください。